

老人クラブの歩み

年次	主なできごと
1947 昭和22	多可郡野間谷村(現多可町)が9月15日を「としよりの日」と定める
1960 昭和35	県老人会連合会結成大会(9月13日)
1962 昭和37	全国老人クラブ連合会結成大会(4月5日)
1963 昭和38	老人福祉法施行
1966 昭和41	「老人の日」を「敬老の日」として国民の祝日に制定
1968 昭和43	近畿老人クラブ連絡協議会発足
	県老連が新設の県民会館内に事務局開設
1971 昭和46	県老連 財団法人の認可を受ける(10月1日)
1973 昭和48	全老連「老人クラブ運営指針」策定
1979 昭和54	65才以上人口、全国で1千万人突破
1982 昭和57	全老連会員章制定
1986 昭和61	県老連「組織・事務・事業検討委員会」設置(12月)
1987 昭和62	県老連、総務財政・企画事業・調査広報・婦人の4部会を設置
	市町老連会長研修会を開催(幹部研修を名称変更)
	全老連「老人クラブ保険」を新設
1988 昭和63	県老連 名称を「兵庫県老人会連合会」から「兵庫県老人クラブ連合会」に変更(6月1日)
	婦人幹部研修会を開催(女性リーダー研修会)
1989 平成元	長寿番付表を作成(平成18年度で廃止)
1991 平成3	「県老連三十年史」発行(3月25日)
1993 平成5	第22回全国老人クラブ大会を神戸市内で開催
1995 平成7	阪神淡路大震災発生(1月17日)
2000 平成12	介護保険制度が開始
	65才以上人口、全国で2千万人突破

年次	主なできごと
2001 平成13	創立40周年記念誌「県老連10年の歩み」発行(3月31日)
2005 平成17	第1次兵庫県老人クラブ会員加入促進増強運動の展開(22年3月まで)
	兵庫県老連若手委員会設置
2007 平成19	5年ごとに開催の兵庫県老人クラブ大会を「兵庫県高齢者の集い」に名称変更し、毎年開催で開始
	県老連機関紙の愛称を「きずな」とする。
2008 平成20	郡老連廃止
	後期高齢者医療制度施行
2009 平成21	市町老連若手リーダー研修会を県下4ヶ所で開催
	老人クラブ等事業運営要綱一部改正(会員規模概ね30人以上)
2010 平成22	県老連愛称制定「のじぎくクラブ兵庫」(4月1日)
	第2次兵庫県老人クラブ会員加入促進増強運動の展開(27年3月まで)
2011 平成23	創立50周年記念誌(兵庫県老連10年の歩み)発行(2月1日)
	東日本大震災(3月11日)
2012 平成24	県老連活動スローガン「楽しくなる 夢中になる 笑顔になる」を制定
2013 平成25	県老連 公益財団法人に移行(4月1日)
	第1回グラウンド・ゴルフ県大会開催
2014 平成26	全老連「老人クラブ100万人会員増強運動」開始(30年度まで)
	県老連「2.5万人会員増強運動」の展開
	健康ウォークラリー講習会を健康ウォークラリー県大会に変更(第1回)
2019 令和元	「令和」が始まる

兵庫県老人クラブ連合会会長特別感謝

(1) 県老連活動への功労に対する感謝

浅見 真一(女性・若手リーダー研修会講師・健康ウォークラリー県大会講師)
 不動 博文(のじぎくクラブ農園運営)
 山口 幸雄(のじぎくクラブ農園運営管理・ボランティアコーディネーター)
 山中 克美(のじぎくクラブ農園運営管理・ボランティアコーディネーター)
 芦屋市ボランティアグループ(代表:大嶋三郎)
 淡路ブロックボランティアグループ(代表:市川富夫)
 金澤 牧博・たず子(加西市)
 三宅 博明(加西市)
 藤原 則男(神河町)
 古家 憲子(市川町)

のじぎくクラブ農園の収穫に尽力し、全国の被災地支援に貢献

(2) 夫婦会員

松崎 明・松崎 和代(芦屋市) 柏木 三男・柏木 弘子(高砂市)
 横山 一彦・横山 優子(伊丹市) 武元 吉盛・武元 都(高砂市)
 谷崎 旭・谷崎紀代子(伊丹市) 丸岡 肇・丸岡 節子(加西市)
 辻下 良治・辻下 富代(伊丹市) 森 勝治・森 孝子(養父市)
 池田 哲男・池田 道子(伊丹市) 足立 一良・足立満千代(丹波市)
 山本 道夫・山本みどり(豊岡市) 畑中 雄作・畑中 慶子(たつの市)
 寺谷健次郎・寺谷 和子(豊岡市) 岩本 信義・岩本あき子(太子町)
 木本 吉郎・木本 房江(赤穂市) 三輪 一三・三輪美智子(香美町)
 伊藤 隆・伊藤 光代(高砂市) 小西 勉・小西千年世(新温泉町)
 光田 剛啓・光田 澄江(高砂市)

わたしたちはのじぎくクラブ兵庫の活動をサポートしています
